

事務事業名	家でも学校でもない第三の居場所事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉	所属G	キャリア教育政策G	課長名 川西 泰恵
	施策名	〈28〉青少年健全育成の推進	担当者名	星野翔	電話番号 0854-40-1074 (内線) 2274
	目的	対 青少年(就学後～30歳未満の 象 市民) 意 図 社会でたくましく生き抜く力を身に付ける。	予 算 科 目	会 計 款 大 事 業 大 事 業 名 0:1:5:0:0:3 社会教育推進事業	
	目的	対 青少年 意 図 規則正しい生活をおくる。	項 目 中 事 業 中 事 業 名 2:5:0:5:1:7 家でも学校でもない第三 の居場所事業		

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
就学援助を受けている小学校1～3年生	居場所での体験活動等を通して、様々な力を身に付けるための土台をつくる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H30 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	様々な理由により放課後児童クラブや学習塾、スポーツ少年団等の活動に参加できない小学校低学年を対象に、学習支援や体験活動等を提供することにより、将来の自立に必要な力の土台を育む。 H30年度:活動拠点整備や開設準備を実施。 R元年度以降:業務委託による拠点運営を実施。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
生活習慣の改善をはじめとする児童の自立に必要な土台づくりに取り組んだ。子どもたちにとって感動体験となるよう、様々な体験プログラムを実施した。 送迎車両を1台購入した。	支援が必要な家庭との支援、繋ぎを市関係部局と学校と連携し、調整した。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	R4年度 (計画)
ア 年度末登録者数	人	17	16	12	14
イ 保護者満足度(活動内容)	%	89.0	100.0	100.0	100.0
ウ 保護者満足度(スタッフ対応)	%	100.0	100.0	100.0	100.0
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)		② コストの推移		単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)
委託	20,000千円	財源内訳	国庫支出金	千円				7,500
車両購入	3,380千円		県支出金	千円				3,750
自動車保険	2千円		地方債	千円				
郵券料	4千円		その他	千円	14,690	20,100	23,380	3,750
			一般財源	千円			6	
			事業費計	千円	14,690	20,100	23,386	15,000

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	子どもが孤立する事案、個々に抱える課題に対応する必要があり、きめ細やかな配慮が必要である。活動の中で児童の前向きな発言も生まれ、利用者アンケートでは100%の満足度を得ている。
② 事業実施するうえでの課題	困難を抱える子どもを守る視点で、事業継続は必須である。一方で、財源としてR3年度までは10/10のB&G財団助成があったものの、R4年度からは無くなった。持続可能な運営体制づくりに向けては、必要経費の見直しと財源確保に向けた検討を続けている。
③ 課題解決に向けた改革改善等	子どもの居場所づくりについては、国も対応を検討されている。R4の財源については国の新補助事業を活用し、運営できる見込みである。一方で、継続的な財源では無いため、今後も財源確保に向け努力が必要である。